

2013年3月期第2四半期決算説明 質疑応答

1. 日時：2012年11月5日(月) 13:30~15:00

2. 場所：東京會館 12F ロイヤルルーム

3. 当社側説明者： 代表取締役社長 飯島 彰己
代表取締役専務執行役員 CFO 岡田 譲治
執行役員 CFO 補佐兼経理部長 松原 圭吾
IR 部長 堀 健一

4. 質疑応答：

質問 鉄鉱石事業において、下半期の適用価格は期首計画での前提価格から30ドル/MT下げたことを主因に金属セグメントの見通しを350億円下方修正したということだがということだが、背景を教えてください。

回答 鉄鉱石価格の感応度は19億円/トン、価格下落の影響は当第2四半期から出ているので、9ヶ月分で計算すると、アジア・大洋州本部持分も含めた減益インパクトと合っているかと思う。

質問 鉄鉱石の市況についてどう考えているか。

回答 足許は、CFR中国、鉄分62%で120ドル前後という理解。今後については、やはり中国次第ということになるが、1兆元のインフラ投資の加速がどのように効いてくるか、一方で欧州の財政危機の影響が輸出に与える影響が今後どのくらい出ることがポイント。1兆元のインパクトはそれなりにあると思っている。製品市況は若干戻り気味ではあるが、もう少しインフラ投資の加速の行方を見極める必要あると考えている。

中国の粗鋼生産は年間7.1億トンペースになっており、鉄鉱石の輸入通関統計も前年比プラスになっている。尚、当社においては、輸送能力の拡張の効果も出てきており、状況は悪くない。来期についてはこれからだが、基本は足許の価格に準じて考えていくことになる。

質問 修正後の純利益で計算すると、ROEがターゲットの12%を切る可能性もあるが、配当性向と合わせ考え方を整理してほしい。

回答 ROEを重視していくのは当然であるが、今期については配当性向25%とさせて頂いた。何が正しいか含め、来期はまたいろいろ考えていくことになる。場合によっては、配当性向だけでなく、例えば配当支払額に焦点を当てた検討も必要かもしれない。

質問 エネルギーセグメントの第1四半期と第2四半期を比べた場合の減益要因についてサハリンIIの配当有無も含め、確認したい。

回答 サハリンIIの配当は、第2四半期では認識していない。それ以外に三井石油開発で、原油価格ヘッジでヘッジ会計が適用されない部分の時価評価損益の変動、加えて第1四半期では三井石油開発からの配当受取に伴う繰延税金負債の取崩しがあったことが主因である。下半期の予算においてはサハリンIIからの配当は見込んでいない。有償減資の前提である。

質問 GORO プロジェクトに関し、持分引き下げに伴う見做し売却益のインパクトは。
回答 金額は控えさせて頂くが、下期にプラスでのインパクトを織り込んでいる。

質問 マーセラス・プロジェクトについて、赤字の金額が増えているが、現在のガス価格であれば変動利益は出ていると考えてよいか。

回答 然り。純損失となっている原因は権益見合いの開発費用の肩代わり部分の償却負担が大きいこと。

質問 上半期の投資実績や現状のマクロ環境から投資スタンスに変更はあるか。

回答 上半期実績は、コデルコ案件 2,300 億円を含め 6,000 億円、下半期でも北海原油・ガス田などの投資支出が控えている状況。資源で言えば、コスト競争力に優れた案件を投資決断しているわけだが、一方で、長期的にはフリーキャッシュ・フローをニュートラルにしていく必要があり、リサイクルを加速しながらネット DER も意識していく必要があると思っている。

質問 当第 2 四半期の一過性要因を踏まえ、上半期を終えて、実力値と、若干弱く見える非資源分野に対する評価を教えて欲しい。

回答 当第 2 四半期では、株式売却益が 90 億円の一方、減損が▲70 億円、ネット 20 億円の一過性と計算している。

非資源分野については、中経においてイメージ 5,000 億円のうち 1,500 億円を目標としているが、主力となるべき食料、化学品、機械・インフラがいずれも時間がかかると見ている。具体的には、インフラは IPP と水事業、食糧では、12 万ヘクタールあるマルチグレインがまだ開墾中で、今期においては旱魃の影響があり、内陸部の集荷販売の強化という課題も残っている。ロシアの搾油事業にも出資したばかり。化学品はダウケミカルとの 2 案件を進めている最中、時間をかけてもしっかりした事業にしたいと思っている。

質問 本部勘定の通期見通しの下方修正要因と思われる繰延税金資産の取崩しの中身について教えて頂きたい。

回答 金額は非開示であるが、地方税部分について評価性の引当を行ったもので、さほど大きい金額ではないとご理解頂きたい。

質問 コデルコとのアライアンスについて、本件に留まらず広く展開していきたいということだが、具体的に話せるものはあるか。

回答 具体的には、コデルコとは銅やモリブデン、リチウムのほか、関連ビジネスであるタイヤ等鉱山器機の供給に向けた話をしている。さらにはコデルコに留まらず、むしろ我々としてはチリ国とやっていきたいこともある。すでにウッドチップの案件は公表させて頂いているが、それ以外にも考えていることはあり、様々な産業と大きな展開を期待している。

質問 モザンビーク LNG 案件の進捗状況とマーケティングの状況について教えて頂けることはあるか。

回答 陸上での液化プラント施設用の土地取得に関しては政府より合意を得ており、書面での正式な承認を待っている状態。その後 FEED に入り、2013 年末までに FID を目指すという流れで変わらない。マーケティングについては、本邦をはじめアジアの顧客と話を始めている。顧客側からも調達ソースの多様化という観点から興味を持って戴いており、その度合を確認しながら進めていきたい。

質問 コデルコ案件の収益貢献について、本業ならびに周辺事業についても整理させて欲しい。

回答 具体的な数値は控えるが、本格貢献は来期以降となる。今期は日割り計算で利益認識することになると思うが大きくはない。チリ国との取組については、先程も話した通り、具体的な案件も上がっているが、交渉中でもあり内容は控えさせて頂く。

質問 先ほどの話だと、鉄鉱石価格は当面 120 ドル前後を前提に置くということだと思うが、その場合、第 2 四半期が豪州鉄鉱石事業の業績としては底になるという理解で良いか。

回答 中国の内陸部含め、そのマクロ動向を引き続き注視していくが、現状では第 2 四半期がボトムになるのではないかと考えている。値決め方式については、より足許のスポット価格での販売への移行が進んでおり、底値は第 2 四半期にかなり消化していると思う。

質問 下半期に一過性要因を織り込んでいたら教えて欲しい。

回答 有価証券の減損や、一部資産リサイクルに伴うプラス要因を織り込んでいる。

質問 期首に公表した中経の 14/3 期純利益予想の 4,500 億円について、現状はどのように整理したら良いか。

回答 中経公表時に、金属・エネルギー分野は商品価格前提をフラットにおいて数量効果を考慮、金属・エネルギー以外の分野においては投資案件の果実化を進めることで、合計で 500 億増益を見込むという説明をさせて頂いた。その時と比べて、マクロ市況の下落が予想外であったが、金属・エネルギーについてはコデルコ案件や北海案件が、持分数量効果として、すぐに収益貢献してくると考えられる。金属・エネルギー以外に関しては景気がどの程度回復してくるか、またマルチグレインにおける天候のリスクなどを考慮すると、現時点でプラス 500 億円がそのまま出るとは言えないが、達成できるように頑張っていくということだと思う。金属・エネルギー以外の部門の赤字についてはこの秋に徹底的に議論して赤字部門をなくしていくためにはどうすればよいかを考える。その上で改めて来期の事業計画を作り込んでいくことにしたい。

質問 今期の投融資で金属・エネルギーが順調に見える一方で、機械・インフラと化学品の進捗が進んでいないように思われるが、下半期に出てくるという理解で良いか。

回答 機械・インフラについては、仕込中の案件も多く、下期でキャッチアップしてくると思う一方、化学品については今期の計画 500 億円について、若干未達となる可能性もあるかと思う。

質問 商品価格のボラティリティについては株主もある程度それを受け入れる必要があるということだと思うが、資源のウエイトの置き方と価格下落時のクッション、それらと配当方針を合わせどのようにバランスを取っていくつもりなのか教えて欲しい。

回答 今期の投融資計画 8,000 億については ご説明した通り資源を中心に超過を見込む。決して非資源を強化しないということではなく、資源に関しては日本の現状を考えると早めに手を打つ必要あり、また、生産・出荷に至るにはかなり時間がかかるので、ここでやっておく必要があるということ。本中経の課題の一つは非資源分野で過去に投資した案件の果実化に注力することでもある。非資源においてもリン鉱石など川上に力を入れて行きたい。株主還元については、ROE と配当性向を意識しながら、全体としてどのような形がいいのか検討課題にしたい。

質問 Bussan Auto Finance について、他社の同様事業では改善傾向も見られるようだが、同社の現状はどうか。

回答 過去の過当競争時の割賦債権の償却負担の影響がまだ残っているが、今年導入された頭金規制の影響でこの点は徐々に改善が見られてきている。一方、この頭金規制の影響でイスラム金融での貸付が増えてきており、ここは当社として検討してとところ。

質問 ブラウズ LNG 案件について、コストが高いという声もあるがどう見ているか。

回答 今後立ち上がってくる新規の LNG 案件と比較して遜色ない競争力を出せると考えている。パートナー間でコスト削減の打ち合わせも進めており、競争力を高められる自信がある案件である。

質問 金属資源セグメントは上/下半期それぞれ約 500 億円のフラットになっているが、鉄鉱石価格の下落要因を考えると、下半期に何かプラス要因があるのか。

回答 仰る通り鉄鉱石の価格下落による減益に対して、コデルコ宛融資に関連する手数料収入と、GORO ニッケルプロジェクトに関し持分引き下げに伴う持分変動益を織り込んでいる。

質問 販管費について、期首計画から 50 億円減となっているが、来期に向けてさらに削減余地はあるか。

回答 これでも下半期は固めに見積もっており、その余地はあると考えている。

以 上